

平成29年度 学力向上アクションプラン

A票

大庄中

学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
<p>○ 学力調査の結果から見られる課題</p> <p>(1) 各教科の状況</p> <p>・平成28年度の学力調査における本校の得点分布を分析すると得点上位層が少なく、大多数の生徒は市内平均点より低い箇所集中している。</p> <p>・資料活用・読み取り・読解問題における力が全体的に低い。</p> <p>(2) 質問紙調査</p> <p>・家庭学習においては「ほとんどしない」「30分まで」の割合が約40%と高い割合を占め、家庭学習の習慣づくりに課題がある。</p> <p>・「学校には落ち着いて勉強に取り組める雰囲気がある」と回答した割合は約61%の割合にとどまり、放課後学習と家庭学習時間を確保し学習の仕方を工夫、改善することで、基礎学力の定着を図るとともに、思考・判断・表現力を強化していく必要がある。</p> <p>・「家の人に言われなくても自分から進んで勉強する」と回答した割合は約50%の割合であり、主体的な学習の習慣を身につけさせる必要がある。</p>	<p>○大学教授を招聘して、協働的な学びの授業計画を推進する。【(1)アクティブ・ラーニング講師招聘を活用】</p> <p>○先進校における取組内容の検証により、授業力向上を図る。(生徒の主体的な学びを重視した授業の工夫・改善)</p> <p>【(2)旅費を活用】</p> <p>○各学期ごとにアクティブ・ラーニングを視点にした校内研究授業を実施し、教師の学ぶ場を確保する。【(3)授業補助支援を活用】</p>	<p>○週3回の放課後学習を実施し、またeラーニングを活用した各学力層に応じた学習支援の実施。【(4)放課後等学習支援を活用】</p> <p>○「シラバス」を作成し、計画的な家庭学習を身につけさせる。(授業と家庭学習の接続)【(5)学習習慣の定着】</p> <p>○自主学ノートを作成し、試験前に学校全体で取り組み週間を設ける。【(5)学習習慣の定着】</p> <p>○夏季休業中の補習を実施。【(6)地域人材活用支援を活用】</p>	<p>○英検への挑戦【英検チャレンジ事業(ホップ)を活用】</p> <p>○ICT機器を活用した授業を公開する。</p> <p>○少人数学習による授業を実践する。【新学習システムを活用】</p> <p>○総合的な学習の時間等にキャリアノートを活用し、社会的、職業的自立に向けた適切な勤労観、職業観を育成する。</p> <p>○特別な支援が必要な生徒への学習支援を行う。【教育支援員配置事業を活用】</p>	<p>○家庭学習において「1時間以上」と答える生徒の割合50%以上になるように取り組む。</p> <p>○「学校には落ち着いて勉強に取り組める雰囲気がある」と回答した割合70%以上なるように取り組む。</p> <p>○国・市が実施する学力調査において各教科とも市内平均に到達するよう取り組む。</p>

校種間連携	活用する支援内容		家庭・地域との連携
	支援内容	具体的内容	
<p>○校区内小学校と合同で、アクティブ・ラーニングという視点からの小中における授業の改善のための研修を実施する。(合同研修と意見交換会)</p> <p>○中学校より提供できる出前授業をリスト化し、小学校からの需要と供給が合致した取り組みを行う。</p> <p>○試験期間中などを利用して、小中間の授業見学を促進する。</p>	<p>(1)アクティブ・ラーニング推進支援</p> <p>(2)先進校視察支援</p> <p>(3)授業補助支援</p> <p>(4)放課後等学習支援</p> <p>(5)学力定着支援</p> <p>(6)地域人材活用支援</p> <p>(7)その他</p>	<p>○「義務教育9年間を見通したキャリア教育について」(兵庫教育大学大学院教授 古川雅文氏)</p> <p>○ ICT機器の備品購入(レーザーポインター、タブレット用キーボードなど)</p> <p>○ 観音寺市立観音寺中学校視察(「学び合う」授業づくりを取り入れた共同学習による授業改善)</p> <p>○ 新学習システム教員による少人数指導、同室複数指導</p> <p>○ 放課後学習 2h×週3×60回、テスト前2h×20回</p> <p>○ 夏季休業期間 3h×10回</p> <p>○ 自主学習ノートの作成</p> <p>○ 学習支援に関わる書籍代、シラバス作成のための用紙・インク代</p> <p>○ 放課後学習支援に指導補助員を活用</p> <p>○ 特別な支援が必要な生徒の学習において教育支援員、不登校加配教員、特別支援教育コーディネーター、学校カウンセラーが連携する</p>	<p>○学年通信、保護者懇談会において、家庭学習でのeラーニングの活用について啓発</p> <p>○放課後学習で、eラーニングも活用し、家庭学習をするための宿題を出し、活用状況を点検</p> <p>○図書ボランティアにおいて、地域の人材を活用</p> <p>○学校通信で学力調査結果の公表</p>